

かかし

葉聖陶  
福井ゆり子  
著 訳



課題図書に指定されている。

作品中、子どもや動物、ときには異星人の姿を借りて、本当の自由や豊かさとは何か。誇りを持つとはどういうことか。人として大切にすべきは何か。といった問いを投げかける。また、作品によつては貧富の差や弱者ばかりが奪われる理不尽さや絶望感、人間の傲慢さを描き糾弾する。百年の時を超えた今でもこれらの問題が人類普遍のテーマの如く目の前に存在し続けている現実について我々は真摯に考えるべきであるが、加えてこれらの物語が書かれた当時、日本という国が奪う側であった事、現代において物質的な豊かさを享受する我々が、地球環境の面において現在進行形で奪う側に属している事は改めて自覚する必要があるだろう。

〈高斯国際出版社 二九四ページ 本体二、七〇〇円〉

蘇州出身の作家・教育家である葉聖陶氏が一九二一年～三六年に発表した児童向け短編童話を収録した作品集。氏は中国における現代童話の創始者とも言える人物であり、表題作の『かかし』は一九二二年に発表されると、魯迅に「中国の童話に独自の創作の道を切り開いた」と評された。現在でも小学校三・四年生の